

第1学年 音楽科 学習指導案

1 題材 「音のスケッチ ～夏をテーマにした作曲に挑戦しよう～」

2 指導観

- 情報化社会の現代の子どもたちは、テレビやゲームなどに囲まれて育ち、コミュニケーション力の基礎となる体験活動が不足がちとなり、自ら考えたことを表現したり創造したりする力が乏しくなっているように感じる。このような現状の中、感性を育み、創造して表現する力を身につける視点から音楽科教育の役割は大変重要であると考えられる。特に創作活動は、生徒1人1人が自己のイメージをもち、そのイメージに近づくように試行錯誤を繰り返す内的な世界の表現活動であり、意義深い学習である。本題材では、夏をテーマに自分で集めた言葉を素材に、創作活動を身近で楽しいものと感じさせることをねらいとする。活動に際して、言葉の抑揚やアクセント、リズムが音や音楽とつながっていることを感じ取らせるために、キーボードを使用し、即興的に音を出しながら、自由に音のつながりや音色を感じ取らせたい。
- 本学級の生徒は、計34名で、発言が多く元気で明るいクラスである。音楽の授業では、歌唱表現に意欲的に取り組む姿勢がみられる。1学期に実施した、強弱や速度声色を工夫して変化を楽しもうという題材（「くいしんぼうのラップ」）では、積極的に表現した。鑑賞教材「魔王」における声の特徴や音楽の諸要素の働きを感じ取る学習でも、感じ取った特徴を生かし、のびのびと表現することができた。創作に対する意識調査では、「おもしろそう」と答えた生徒も一部にいるが、「難しそう」という意見がほとんどであった。また、記譜経験についても「あまり経験したことがない」と答えている。
- 指導にあたっては、曲を創作する楽しさや喜びを感じさせることを大切にしたい。そのためにまず、「くいしんぼうのラップ」を導入に用い、楽しい雰囲気の中で言葉のリズムに着目させることから取り組みたい。次に、夏をテーマに思い浮かべた言葉を連想させ、言葉にリズムを当てはめていき、4小節のリズム創作をする。さらに、言葉の抑揚を感じ取らせ、その抑揚を手がかりにラとソとミの3音を使って節をつけていく。実際に、教師が例を示し手順が理解できるようにする。その際、リコーダーを使用し、自由に音を試行錯誤しながら旋律を創造させる。ただし、適当に音をつなげる活動とならないように、感じ取った言葉のリズムや抑揚などを手がかりに旋律を創造させたい。最後に、詩の抑揚を生かして作曲された「夏の思い出」をリズムや抑揚を感じながら読み、鑑賞し歌唱することで創作活動の意義をつかませたい。

3 単元目標

観 点	評 価 規 準
音楽への 関心・意欲・態度	○ 創作に関心をもち、言葉などの特徴を感じ取ろうとしている。 ○ 言葉の抑揚を生かした旋律づくりに関心をもち、意欲的に旋律をつくらうとしている。
音楽的な感受や 表現の工夫	○ 言葉の特徴を感じ取っている。 ○ 言葉の抑揚を生かしながら工夫して創作している。
表現の技能	○ 言葉の抑揚を生かしながら創作することができる。
鑑賞の能力	

4 単元の指導・評価計画 単元の配当時間：2時間

※「指導上の留意点」における①②③：3つの授業改善のポイントに係る手だて

- ①「教えること」と「学ばせること」を区別した手だて
- ②学習過程の要所で「考えを書くこと」を大切にしたい手だて
- ③学習したことの「まとめ」と「振り返り」を徹底した手だて

●：家庭学習の課題を生かした手だて

○：一般的な手だて

※「評価規準（評価方法）」における観点

- 関：音楽への関心・意欲・態度 感：音楽的な感受や表現の工夫
- 表：表現の技能 鑑：鑑賞の能力

次	時	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	1	<p>○夏をテーマにした作曲に挑戦する</p> <p>(1)言葉のリズムに着目し表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連想される言葉 例 うみ ザブーン ひやけ ヒリヒリ <p>(2)夏をイメージした言葉をリズム分けする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・  なつ うみ ・  ひやけ ・  ソーダ ・  ひりひり ・  ザブーン <p>(3)言葉のリズムをつなぎ合わせて、リズム創作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うみだ んざぶーン  ・日焼けがヒリヒリ  <p>(4)創作したものを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人練習 ・班内発表 ・班代表発表 <p>(5)各グループの評価と授業のふり返りを記入する。</p>	<p>○「くいしんぼうのラップ」を楽しく表現させ、言葉のリズムに着目させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事前にαノートの課題として例題と同じリズムの言葉（夏を連想させる言葉）を見つけ書かせておく。 <p>②夏からイメージされる言葉をワークシートのリズム譜に記入させる。</p> <p>①言葉のリズム譜の例をいくつかヒントとして示す。</p> <p>○リズムを組み合わせて、4小節のリズム創作をさせる。</p> <p>①言葉をつなぎ合わせる時に、ある程度意味が伝わるように動詞なども組み合わせるように指導する。</p> <p>③完成した作品を表現できるように練習させ、班内発表後、班から1人代表に発表させる。</p> <p>③発表の後にはお互いに評価をさせて、意見や感想を交換させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●次時の予告をし、αノートに例題と同じ抑揚の言葉を書いてくるように課題を出す。 	<p>関 創作に関心を持ち、言葉などの特徴を感じ取ろうとしている。（様相チェック・プリント分析）</p> <p>感 言葉の特徴を感じ取っている。（様相チェック・プリント分析）</p>
2	1	<p>○言葉の抑揚を生かして旋律づくりをする。</p> <p>(1)言葉の抑揚を感じ取る。</p> <p>(2)節をつける。</p> <p>(3)創作したものを発表する。</p> <p>(4)学習のまとめをする。</p>	<p>○ワークシートで前時をふり返り、学習内容を確認させる。</p> <p>①●αノートの課題として出した「雨」や「飴」など音の高低がはっきりと聴き取れる言葉を例に用い、言葉の抑揚を感じ取らせる。</p> <p>①前時に作成した音の高低を2段階でつける。書きやすいようにワークシートを表形式にしておく。</p> <p>①繰り返し声に出しながら言葉の抑揚を感じ取らせる。</p> <p>○2段階（高い・低い）に分けた音高に単純にラとソの音を当てはめて旋律的にさせる。</p> <p>○キーボードを用い、自分の作品の旋律を覚え、声に出しながら表現させる。</p> <p>○ラとソの作品に、ミの音へ変える部分を工夫させ、童歌風の旋律で仕上げさせる。</p> <p>○ミの音に変換する例を黒板とプリントで示し、わかりやすくする。</p> <p>①キーボードを用い、自分の作品の旋律を演奏してみたり、声に出したりしながら試行錯誤させる。</p> <p>②発表の後にはお互いに評価させ意見や感想を交流させる。</p> <p>③今回の学習がこれからの音楽活動にどうつながるのかを示唆する。</p>	<p>感 言葉の抑揚を生かしながら工夫して創作している。（表現チェック・様相チェック）</p> <p>表 言葉の抑揚を生かしながら創作できる。（表現チェック・様相チェック）</p> <p>関 言葉の抑揚を生かした旋律づくりに関心を持ち、意欲的に旋律をつくらうとしている。（様相チェック・プリント分析）</p>

5 本時 平成22年9月24日(金曜日)第4校時 計画2時間中の2 第1音楽室にて

(1) 本時の主眼

- 言葉の抑揚を生かしながら表現している。(音楽的な感受や表現の工夫・表現の技能)
- 言葉の抑揚を生かした旋律づくりに関心を持ち、意欲的に旋律をつくろうとしている。(音楽への関心・意欲・態度)

(2) 本時の指導観

前時までに生徒は、言葉のリズムを生かして4小節のリズム創作ができています。本時は、言葉の抑揚を感じ取らせながら、曲を創作する楽しさや喜びを感じさせることを大切にしながら表現することがねらいである。そのためには、まず、言葉の抑揚をつかませ、リズム創作した言葉の抑揚を考えさせたい。その際、抑揚が高いか低いか2段階に限定して聴き分けるように指示し、実際に声に出して抑揚を感じさせる。次に、節をつけていく。はじめは、ラとソの二音のみで節付けをした上で、ミの音を加えて創作させる。さらにまとめとして班内発表、班代表発表を行い、相互に評価しあい、感想を交換できるようにする。最後に、関連曲として「夏の思い出」を鑑賞し、言葉の抑揚やリズムと音楽との関わりを感じ取らせ、創作活動の意義をつかませたい。

(3) 準備

教師・・・提示物(リズムカード・音高カード)、学習プリント、キーボード
 生徒・・・教科書、リコーダー

6 過程

学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準(方法)	形態	配時
<p>1 言葉の抑揚を感じ取る。</p> <p>(1)言葉の抑揚を2段階(高低)で聴き分ける。 [例] う み だ ー ザ ブ ー ン 高 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 低 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p> <p>日 焼 け が ひ ー り ひ り 高 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 低 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○ワークシートで前時を振り返り、学習内容を確認させる。</p> <p>① ● αノートの課題に出した「飴」や「雨」など音の高低がはっきりと聴き取れる言葉を用い、言葉の抑揚を感じ取らせる。</p> <p>②前時に作成したリズム創作作品の言葉に音の高低を2段階でつける。書きやすいようにワークシートを表形式にしておく。</p> <p>③繰り返し声に出しながら言葉の抑揚を感じ取らせる。</p>		<p>全体</p> <p>個</p>	<p>3</p> <p>5</p>
<p>めあて：言葉の抑揚を生かして旋律づくりに挑戦しよう。</p>				
<p>3 節をつける。</p> <p>(1)ラとソだけを使って節をつける。 う み だ ー ザ ブ ー ン ラ 高 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ソ 低 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p> <p>日 焼 け が ひ ー り ひ り ラ 高 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ソ 低 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p> <p>(2)ミを加えて節を工夫する。 [例] 「う(ラ) み(ソ)」 「う(ラ) み(ミ)」 「う(ソ) み(ミ)」</p>	<p>○2段階(高い・低い)に分けた音高に単純にラとソの音を当てはめるよう支持する。</p> <p>○リコーダーを用い、自分の作品の旋律を覚え、声に出しながら表現させる。</p> <p>○ラとソの作品に、ミの音へ変える部分を工夫させ、童歌風の旋律で仕上げさせる。</p> <p>○ミの音に変換する例を黒板とプリントで示し、わかりやすくする。</p> <p>①キーボードを用い、自分の作品の旋律を演奏してみたり、声に出したりしながら試行錯誤させる。</p> <p>○机間指導を行い、うまく表現できない生徒にはプリントを元に再現してみせたり、一緒に表現したりして助言する。</p>	<p>感：言葉の抑揚を生かしながら工夫して創作している。(表現チェック・様相チェック)</p> <p>表：言葉の抑揚を生かしながら創作できる。(表現チェック・様相チェック)</p> <p>関：言葉の抑揚を生かした旋律づくりに関心を持ち、意欲的に旋律をつくろうとしている。</p>	<p>個</p>	<p>20</p>
<p>4 創作したものを発表する。 ・班内発表 ・班の代表者発表 ・総合評価</p> <p>5 学習のまとめをする。 ・関連曲「夏の思い出」の鑑賞</p>	<p>○完成した作品を表現できるように練習し、班内発表後、班の代表1人に発表させる。</p> <p>②発表の後にお互いに評価をしあい意見や感想を交流させる。</p> <p>③今回の学習がこれからの音楽活動にどうつながるのかを示唆する。</p>	<p>関：言葉の抑揚を生かした旋律づくりに関心を持ち、意欲的に旋律をつくろうとしている。(様相チェック・プリント分析)</p>	<p>班集体</p> <p>全体個</p>	<p>10</p> <p>12</p>